

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

命～ツマグロヒョウモン～／草津市立矢倉幼稚園（滋賀県）

春、チョウの幼虫を飼育する園は、多いのではないのでしょうか。

今回の事例は、ツマグロヒョウモンの幼虫と出会い、飼育、観察を通して変容する子どもの姿を整理し構想図にまとめた園の事例をご紹介します。構想図にすることで、園が考える「科学する心」が整理され、具体的な子どもの育ちを事例から読み取ることに繋がっています。



● ツマグロヒョウモンさん、ありがとう／4歳児

✦ ツマグロヒョウモンとの出会い

5月9日

Aさんがピオラの葉にいたチョウの幼虫を見つける。
黒い体に無数のトゲトゲ、オレンジの模様がある幼虫だった。
Bさん：「うわ、毛虫や！」
Cさん：「毒があるから触ったらあかん！」
保育者：「この幼虫の名前知ってる？」
Bさん、Cさん：「知らん」
保育者：「知らんのに毒があるって決めつけてたん？」
その後、みんなで図鑑で調べることになった。



✦ 好きなのは葉っぱ？それとも花びら？

5月11日

Aさん、Bさん、Cさんは、幼虫を観察しているうちに興味が増し、「幼虫を飼いたい」と保育者に伝えにきた。そこで、クラスのみんなで話し合うことにした。クラスの友達も飼うことに前向きで、みんなで幼虫を育てることになった。その日、Dさんは幼虫のエサに、ピオラを茎ごと採って飼育ケースに入れ、Eさんはピオラを花柄の部分から採って飼育ケースに入れた。

5月12日

Eさんが「なんで僕の花は食べてくれへんのやろ」とつぶやく。子どもたちがやってきて飼育ケースをのぞき、「Eくんの入れたお花の色は好きじゃないちゃう？」などと自分なりに考えを伝え合っていた。すると、Bさんは、「もしかしたら、葉っぱが好きなんかも」と言った。それを聞いたDさんは、「なあ見て！僕が入れたお花（ピオラ）もこっち（葉）は食べてるけど、こっち（花びら）は食べてない！」Eさんは、「ほんまや！」と言って皆で飼育ケースを覗き込んでいた。



✦ ツマグロヒョウモンさん、ありがとう

5月27日

クラスで飼育していたツマグロヒョウモンが成虫になった。子どもたちは「目の上にこんなんがあるで」と指で触覚を作って知らせたり、「1, 2, 3, ……」と指差ししながら足を数えたりする。「足が3本」「手が2本で足が2本」など、思いを言葉にしていた。同じチョウを観察しているはずなのに、答えが違うので、友達の考えを聞いた子どもは何度も足を数え直していた。

観察している間に羽を何度もパタパタと動かすチョウを見て、Fさんが「飛びたいのかな。外に逃がしてあげよう」と提案した。ツマグロヒョウモンが自分の力で飼育ケースから出ていく姿を、子どもたちは「頑張れー！頑張れー！」と応援。チョウが飛び立つと、さらに大きな声で「ありがとう！元気でね！バイバイ！」と言っていた。



✦ 雨の日、どうしているかな？

6月10日

雨上がりの園庭をみんなで探検している時、Aさんが「ツマグロヒョウモンさん、こんな日はどうしてるかな？」とつぶやく。みんなで探してみるようになった。子どもたちは、今までの経験からツマグロヒョウモンがピオラを好むことを知っていたので、ピオラのプランターを探す。結局、成虫は見つからなかったが、幼虫は見つかった。「小さいな」「赤ちゃんや」など言いながら頭を寄せてツマグロヒョウモンの幼虫を観察する。次第に子どもたちの会話は「雨降ってる時もここにいたのかな」「濡れても大丈夫なんかな」「お花の下に隠れてたのかも」などと発展し、ツマグロヒョウモンの幼虫の雨天の過ごし方について自分なりの考えを伝え合うようになった。そして、「もう一回ツマグロヒョウモンさん飼いたい」と言って飼育ケースに入れ、またツマグロヒョウモンを育てることになった。



✦ 壁登りが得意なツマグロヒョウモン

6月27日

子どもたちが、テラスの壁を登っていたツマグロヒョウモンの幼虫を見つけた。

「すごい！あんなところまで登ってる！」

保育者が「ツマグロヒョウモンさん、上手に登るね。なんで落ちないんだろう？」と聞く。子どもたちは、「足がたくさんあるから。（足の数を数え）10ぐらいある」「足の力が強いから」「足がべたべたしてるから」などと予想していた。

Aさんは飼育しているツマグロヒョウモンの幼虫を割り箸にそっと乗せて、観察した。そばにいたBさんが「思った通り落ちひんわ。だって、（幼虫は）足でつかまってるやろ？」と言っていた。

Bさんは「ツマグロヒョウモンさん、いっぱい足でギュッとつかまってるで」と自分の考えを別の友達にも伝えていた。



